

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2770801633		
法人名	社会福祉法人 隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
所在地	大阪府大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	平成 27年 3月 10日	評価結果市町村受理日	平成 27年 5月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・外出の機会を増やし、閉じこもらないよう、社会との関係が切れないように支援している。集団での外出が苦手な方でも個別外出をし、外出先も本人や家族などに本人の行きたい場所や好きな場所を聞き取りし、外出するようにしている。
- ・起床時間(起きたい時間に起きる)や入浴時間(夜の入浴)なども個々のご希望に応じ対応している。
- ・ボランティアなどに協力を求め、いろいろなレクリエーションや外出支援を手伝ってもらっている。ホームに来られる人が増えるということは、なじみの関係が増えるということで定期継続してもらえるようにしてもらっている。
- ・自施設だけでなく、他施設の見学を積極的に行い、良い点を見習い、取り入れるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvsoCd=2770801633-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvsoCd=2770801633-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 4月 13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養や地域包括支援センター等を運営し、地域に貢献している社会福祉法人が設立した2ユニットのグループホームです。グループホームは2・3階部分にあり、1階には同法人デイサービスセンターを併設し、利用者間の交流を進めています。大規模な公園に隣接しており、利用者は景観が良く、明るい居間でのんびりと過ごすことができます。地域の会館で月1回開かれるふれあい喫茶や体操イベントに参加したり、地域ボランティアの協力を得て、レクリエーションやクラブ活動にも取り組んでいます。職員は外出支援に力を入れ、日常の外出支援や誕生日の個別外出支援に取り組む等して、利用者には喜ばれています。利用者の希望に副って、調理師が本格的な料理を提供する日を設けるなど、食を楽しむ支援もしています。ホームには友人、知人も遊びに来られ、職員は利用者のお客さまとして対応しています。管理者は職員の育成に力を入れ、利用者への接遇も含め、住みやすい環境作りに取り組んでいます。行政との連携が良く、法人の支援もあることから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『5つの笑顔』を理念に運営しております。クレドをカード化し、全職員胸ポケットに肌身離さず携帯して、常に理念を実践していくように努めています。	「ご利用者の笑顔 ご家族の笑顔 地域の笑顔 職員の笑顔 法人の笑顔」を理念としています。「地域の笑顔」では、「地域の方にとっても憩いの場として位置づけられるような開かれた施設」を目指しています。職員は、理念をホーム内に掲示し、毎朝朝礼で唱和しています。また、理念をカードにして携帯し、日々実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のふれあい喫茶の参加や、地域コーディネータと連携し、虹の会に職員と利用者様が参加しています。	地域自治会に加入し、地域と連携しながらホーム運営を進めています。利用者は、地域の会館で月1回開かれるふれあい喫茶や体操イベントに参加し、地域交流の機会を楽しんでいます。また、地域ボランティアの協力を得て、レクリエーションやクラブ活動に取り組んでいます。同法人運営のデイサービスセンターが1階にあり、地域の利用者との交流を積極的に進めています。職員は小地域ケア会議に参加し、地域住民、消防、警察、医療機関などの専門職と連携を図りながら、介護職の視点から発言や助言を行うなど、地域運営に貢献しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	小地域ケア会議に参加し、地域住民や消防、警察、医療機関など専門職との連携を行っています。その中で、介護の専門職として、認知症ケアや認知症になっても安心して暮らせる地域作りが出来るよう、専門的な観点からのアドバイスをおこなっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を实地。利用者様のご様子や、ご家族様の希望を聞き、常に改善し、居心地のよい環境作りをおこなっています。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回の定期開催をしています。構成メンバーは利用者家族、地域住民(町会長)、地域包括支援センター職員、施設職員としています。最近の会議では、ホーム職員が利用者の状況や運営の報告、職員の動向、事故報告、インフルエンザ感染報告、オンブズマンの派遣依頼等の説明を行い、意見交換をしています。また参加者からは、誤薬防止や肺炎球菌ワクチン接種、オンブズマン、看取り介護、家族との連携、転倒事故防止について等、多くの意見や積極的な提案が出されています。出された意見や提案等については、速やかにホーム運営へ活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場において、地域包括支援センターの職員が参加し、施設の取り組みを公表し評価を得ている。	管理者は、市の担当課に連絡や相談、情報交換を行っています。計画作成担当者は、毎月市の担当課に出向き、報告・相談をしています。市が推進する小地域ケア会議等へ積極的に参加し、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束の研修を内部研修として実施。また、外部研修に参加させています。 身体拘束ゼロ宣言のパネルを作成し、職員が目につきやすい場所に掲示しています。	身体拘束ゼロ宣言を行い、職員には内部研修・外部研修を実施して、方針の徹底をしています。各階の玄関は開錠し、エレベーターはボタンを数回押せば昇降できるようにしています。利用者が外出をされる場合には、職員が付き添い、安全確保に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会を定期的に実施し、外部研修に積極的に参加しています。 不適切ケアに関して、事例検討を通じ、各職員に虐待につながる可能性のある場面を考えてもらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター主催の、成年後見制度の研修に参加し学ぶ機会をついている。成年後見制度の質問があった時は、グループホームの家族様へのアドバイスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず、重要事項説明書をもって、十分な説明をおこない、質疑応答の時間を設けている。十分に納得してから、契約をおこなうようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットに設置し、利用者様や家族様の意見が反映される、仕組み作りをおこなっている。意見等があった場合は、会議の場で、可能な限り対応できるよう調整しています。	家族が来訪されたら、職員から利用者の様子を報告し、意見等を聴取しています。利用者の日常の様子や外出時の風景等、写真を多く掲載した「ゆめ長居公園だより」を発行して、家族に配布しています。ホーム内に意見箱を設けて、家族が意見を出しやすいようにしています。家族から出された意見は、ホーム運営に反映するよう取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議をおこなっている。また、月に1回の代表者が参加する、運営会議をおこない、職員の意見や提案を伝えています。	管理者は、日頃から職員と対話をし、意見や提案があれば聴取しています。また、年に1～2回職員面談を行い、職員の意見や希望を聴取して、ホーム運営に活かしています。職員は毎月のフロア会議で意見交換を行い、ホーム運営について提案を行う機会を持っています。職員の提案で、こたつコーナーを導入しています。	管理者は新入職員を含め、職員の育成にこれまで以上に力を入れることで、さらに利用者サービスの向上を図る予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備委員会の設置や、職員が働きやすいよう工夫する8S運動(整理・整頓・清潔・安全・節約・躰・しぐさ・清掃)を定期的に開催しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や外部講師を施設内研修に招待し、職員一人一人のスキルアップの向上に努めています。また、チューター制度で、OJTを活用した、人材育成を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉連盟に加盟、グループホーム委員会の定例会議に参加しています。 東住吉グループホーム連絡会にも加盟し、月一回の会議に担当職員を参加させることで、他事業所の取組みを導入する機会を設けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談をおこない、利用者ニーズ、家族ニーズの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談をおこない、利用者ニーズ、家族ニーズの把握に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時にマッサージや訪問リハビリ、訪問診療等、個別ニーズにあった、サービス利用の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯物たたみなどを一緒におこなうことによって、暮らしを共にするという意識の向上に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族様にも、施設たよりを定期的に送付し、日常の御様子を伝えるようにしています。定期的に家族会を開催し、施設に来やすい環境作りを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店を運営されていた、利用者様の常連のお客様が、面会に来られたり、近所の喫茶友達が、定期的に面会に来られたりと関係が途切れないよう配慮しています。	面会簿には友人、知人が来訪した記載があり、その際に職員は利用者のお客様として丁寧に対応し、関係が途切れないように支援しています。希望される利用者には、携帯電話の所持をしてもらい、必要な場合には使用時の援助をしています。また、年賀状や手紙等を出したりする支援もしています。字が思うように書けない場合には、職員が援助しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア会議で、席順の話合いをおこない、現在の人間関係の状況把握に努めるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様の趣味でちぎり絵をされており、利用者様退去後も、月1回ボランティアで、ちぎり絵を教えに来てくれます。親族に、介護が必要な方が、おられた場合は、介護サービスについての相談支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、思いや暮らし方の希望を聞き、ケアプランに反映しています。訴え困難な場合でも、家族様に希望を聞くように努めています。	職員は利用者一人ひとりの意向を確認し、さらに日常生活の中から思いを汲み取り、記録に残して職員間で共有して、支援に活かしています。利用者が言葉で表せない場合には、表情や動きで確認し、困難な場合には家族の協力を得て、利用者本位の対応をしています。職員は利用者が自分の思いで行動できるように見守り、着衣を選んだり、食事時間を決めたり、誕生日の外出先を選んだりできるよう、意向に副った支援をしています。	管理者や職員は利用者一人ひとりの思いを理解し、行事やレクリエーションでさらに楽しめるようにすることで、利用者間の好ましい関係づくりが進むよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用契約時に、生活歴や、趣味嗜好など、これまでのサービス利用を含めた、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録の中で、1日の過ごし方や残存機能等の情報を入力するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な会議の中で、現場の職員から、課題と現状のケアの在り方を聞いています。現状を家族様に電話または、お手紙を書き、家族様の意見を取り入れた、介護計画の作成に努めています。</p>	<p>家族と面談し、面談できない場合には電話や手紙で家族意見を聞き取り、さらに利用者を担当する職員の意見を確認し、介護計画書を作成しています。作成した介護計画書案はサービス担当者会議を開催して、話し合っています。介護計画書は利用者家族に説明し、了承サインを得ています。家族が遠隔地の場合には、電話等で説明をした後に郵送し、了承を得ています。</p>	<p>ホームでは今後、利用者の日常生活支援において、十分な運動量が確保できるように取り組む予定です。車イス対応の利用者には、可能であれば車イスで自走するなど、自分でできることは自身でしてもらうことを心がけ、下肢運動等の時間を増やよう取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各フロアで、同じ情報が閲覧できるよう、介護ソフト絆を活用し、日々の様子やケアの実践を、細かく入力しています。その情報を基に、介護計画の見直しを検討しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日常のサービスでは、物足りない利用者様に関しては、歌のボランティアさんに協力をお願いして、レクリエーションを提供しています。また、アロマやマッサージなど、外部サービスを活用した支援もおこなっています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>障害者の方が、訪問喫茶して、利用者様に提供して下さったり、買い物と一緒に行ってくださるボランティアさんが協力して下さったりと、地域資源との協働に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医による訪問診療を行っています。嘱託医以外の受診についても、ご利用者様の必要に応じて、ご家族様と連絡を行ない、通院介助を行っています。複数の医療機関を受診できるような環境づくりをしています。	利用者家族の希望に副った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。受診時には家族と連携して職員が同伴し、受診支援をしています。事業所の嘱託医による訪問診療を希望される場合には、必要に応じて対応しています。訪問看護、または同法人看護師と連携し、緊急時にも適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護または通所介護の看護師との連携により、日々の体調管理を、適切におこなっている。また、病状が悪化した場合は、看護師に相談し、適切な受診が出来るよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、ご家族様と一緒に診療の方針等について説明を受けるようにしています。また定期的に病室を訪れ、看護師、ご家族様と情報の交換を行い、早期退院に向けた環境整備を行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化した場合の指針の説明を行い、原則として特別養護老人ホームへの入所申し込みについても説明しています。重度のご利用者様については、随時他の施設への移動などを家族と検討して対応しています。当ホームの浴室状況や食事内容に関してできること、出来ないこと(機械浴がない。)を家族様に伝え、ホームでの介護が困難になると特養などへの入所申込を勧めています。次の場所が決まるまでは、ホーム内でできることを伝え、対応することにしていきます。</p>	<p>入居契約面談時に、重度化した場合の対応について説明し、「重度化した場合における指針の同意書」を得ています。基本的には、看取り支援は行わない方針で、あらかじめ特別養護老人ホームへの入所申し込みについても説明し、同意を得ています。重度化した場合の対応としてはその都度、利用者の状況を確認し、家族や医師と相談して、利用者に最も適した療養の場を確保できるようにしています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時に法人として、急変時の対応及び事故発生時の対応の、研修をおこなっています。また、施設としても定期的に、緊急時の対応の研修を行うよう、年間研修計画書にて、計画的に人材育成に取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災講習や、地域ケア会議に参加し、災害発生時の対応がスムーズに行えるよう、協力体制を整えています。また、自施設としての取組みとして、危機管理委員会を設置し、備蓄品等の防災予防に努めています。	運営規程には「年に2回定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行うものとする」と明記し、防災マニュアルを作成しています。平成26年度は、消防署と連携し、消防振興会の協力を得て、避難訓練を実施しています。また、自主訓練も実施し、様子を写真や記録に残しています。非常災害時の備蓄については、現在ホーム内に保管していますが、一部使用後に補充していない食料品がある等、課題が残っています。	備蓄については、備蓄リストを再整備し、さらに充実するよう取り組むことが期待されます。
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念にあるようにご利用者様の笑顔を大切に言葉かけを行っています。また入職時に「ゆめしぐさ」の研修を必ず行い、お一人おひとりの人格を尊重したプライバシー等損ねない言葉かけや対応の徹底に努めています。記録等については、スタッフルームにて管理しており、日中は常時施錠することで対応しています。	職員の入職時には、法人のプライバシー等の行動指針「ゆめしぐさ」の研修を必ず行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を徹底するよう取り組んでいます。職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した接遇に努めています。個人情報記載した書類やデータ等は厳重に保管するよう、職員間で徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により、自己表現が難しくなった、利用者様でも、思いやりの心をもって、コミュニケーションを図り、少しの表情の変化を、汲み取るようにケアしています。また、自己決定が出来るよう、複数の選択肢を用意するよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間を無くし、その人のペースで1日が始まるよう、タイムスケジュールに工夫しています。午後からも、その人の気分によって、何をするか決めるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくおしゃれできるように、衣類などこちらで指定せず、一緒に洋服選びをおこなうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、食器拭きなど、個々のレベルに応じて、利用者様と一緒にこなうようにしています。また、外部から料理人を招き、日ごろ食べれない、料亭料理を2ヶ月に1回提供しています。	朝食は、ホームで作っています。昼食と夕食のご飯はホームで炊き、おかずはクックチルを利用しています。職員は、利用者と同じテーブルで見守り支援を行いながら、食事を摂っています。嚥下困難な方には、刻み食等を作り、ゆっくりと利用者のペースで食事ができるように介助しています。利用者の誕生日には、担当者と誕生日外出があり、外食で好きなものを食べています。家族と一緒に食事をする機会もあります。2カ月に1回、法人派遣の料理人が来訪し、利用者の希望に副った料亭料理を作って食を楽しむ支援をしています。おやつは、ホーム内で利用者と一緒に作る機会を設けています。利用者は、食器やお盆拭き等、役割を持って行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は記録に残し職員間で情報共有できる体制を整えています。栄養バランスにかんしては、定期的に、給食会社に問い合わせし、カロリー数値を聞くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 定期的な訪問歯科による、歯の健康状態のチェックをおこなうようにしています。 臥床時は、入れ歯をはずし、消毒するようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、排泄パターンの把握に努めています。排泄前の声掛けにより、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。	プライバシーに配慮しながら声かけをするなど、利用者の排泄パターンに合わせた支援をしています。排泄の失敗があっても、なるべくオムツを使用せず、排泄リズムに配慮した声かけを行うなどの工夫をしています。排便コントロールについても、日頃から意識して自然な排便ができるよう、利用者一人ひとりに合わせた対応をしています。夜間には、ポータブルトイレを活用するなど、利用者の状況に合わせた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良いものを摂取して頂くことや、日中の運動により、便秘予防に努めています。個々に応じて、腹部をマッサージするなどのケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様と相談した上で入浴日の設定を行なっています。その際、時間帯については当日ご利用者様の状況をみながら声かけを行ない入浴していただいています。	週3回の入浴を基本としていますが、毎日入浴は可能です。入浴を好まない利用者には、声掛けの仕方を変えたり、入浴剤を入れたり、時間を変えたり、翌日に再度声かけをしてみる等、気持ちよく入浴してもらえるように支援しています。しかしながら、一部体調の都合等により、入浴回数の少ない状況も見られます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間寝付けない利用者様には、足をマッサージしたり、部屋の温度を調整したりと、安眠できる環境の整備を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当を決め、服薬管理を行っています。他のスタッフがいつでも確認できるように、利用者ファイルに、処方箋等を張るようにしています。 誤薬が無いよう、服薬前のチェックを必ず行いようとしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換が図れるよう、毎日の外出をできるようにしています。(雨天時以外) 買い物に行く際、お元気な方には、買い物袋を持ってもらうなど力を活かした役割を日常の中でもってもらうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日企画として、普段いけないような場所まで、職員が1対1で外出支援を行うようにしています。 また、外出が難しくなった方には、食べたい物や、見たい物など聞き取り、ニーズが満たされるよう支援しています。	日常的には、近くの公園へ散歩に出かけています。食材やおやつ等を買いに、利用者と近くのスーパーへ出かけています。誕生日外出では、担当職員と行きたいところへ行き、食事や喫茶などを楽しむなど、個別外出にも取り組んでいます。同法人デイサービスの外出行事に、ホームの利用者も参加することがあります。また、職員と共に遠方の大きな公園や展示館等にも出かけています。地域の回覧板で、知り得た行事にも参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はお金は、施設管理していますが、本人家族様の希望により、お金を所持してもらっている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持してもらっています。また、年賀状などのお手紙も、書いてもらっています。字が書けない方には、職員が付添支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	匂いや、汚れなど、利用者様が居心地の良い、空間になるよう努めています。また、施設として環境整備委員会を設け、安全性・快適性が向上するよう努力しています。	リビングは、2方向がガラス窓で明るく広く公園が見渡せます。行き交う人々や季節の花・木々の移り変わりなど、季節等を感じることもできます。また、バルコニーにあるプランターには、花を植えています。共有空間にはこたつコーナーを設けており、ソファも配置しています。利用者は好きな場所で景色を見たり、テレビを見たり、新聞を読む等して、居心地良く過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを人数以上に配置し、好きな場所でくつろげるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅等で使い慣れた家具を持ってきて頂いてもよいと、説明しております。思い出の絵画などを部屋に飾られたりもしています。	居室は、エアコンとクローゼット、洗面台が標準で設備され、一部ではトイレ付の居室もあります。利用者に合わせて、ポータブルトイレを持ち込んでいる方もいます。ベッドはホームが一律で備え付けるのではなく、利用者に合わせたベッドをレンタルや購入で個別に設置しています。利用者は机や椅子、整理ダンス等を持ち込み、写真、ぬいぐるみなど、お気に入りのものを飾り、その人らしい居心地の良い空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、そのひとに合った、支援が出来るよう努めています。トイレや居室などその方の状態に応じてわかるよう掲示しています。		